

第2学年1組 道徳科学習指導案

令和元年9月30日（月） 第5校時
在籍 男子11名 女子16名 計27名
授業者 教諭 有 泉 美 菜

1 主題名 助け合う友達 内容項目【B 友情、信頼】

2 本時のねらい 自分とは異なった考え方、行動の仕方をする友達とも認め合い、友達のよさを実感し、話し合う活動を通して、友達と互いに仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

教材名 森のともだち（出典「新しいどうとく2」東京書籍）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

小学校1年生及び2年生の指導の観点は、「友達と仲よくし、助け合うこと」である。身近にいる友達と一緒に仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが大切である。

人は互いに支え合い、助け合うことで互いの存在を認め、理解し合い、信頼を深めながら、よき友達関係を築いていく。自分が困っていたり、寂しかったりしたときに、助けてもらったり、声をかけてもらったりすると、とてもうれしい。逆に、友達が困っている時には、相手の立場に立って、手を差し伸べようとする、相手もうれしく感じる。

友達と仲良くしようとする心情を育てるためには、学習活動や生活のさまざまな場面を通して、相手の気持ちを推し量ろうとする気持ちが大切となる。

（2）これまでの学習状況及び児童の実態について

2年生のこの時期においては、まだ幼児期の自己中心性が残り、友達の立場を理解し自分と異なる考えを受け入れることが難しい時もある。学級での生活を共にしながら仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配したりする経験を積み重ね、友達のよさを強く感じるようになってきた。

本学級の児童は、明るく活発である。2学期が始まり1か月が経ち、学校生活にも慣れ、児童は学習や運動に意欲的に取り組んでいる。学級の友達と運動会などを通してより仲良くなり、筆算や漢字など、難しい学習も助け合いながら根気強く取り組んだり、休み時間や体育の時間に力いっぱい体を動かしたりしている。また、給食や掃除などの当番活動やクラス遊び、授業における班活動を通して、友達の「よいところ」や「頑張っているところ」にも目が向けられるようになった。帰りの会では、「頑張っていた友達」を発表する児童が増えてきた。また、友達と協力して活動しようとする意識が芽生え、当番活動など互いに声をかけ合う姿をよく見かけるようになった。

しかしその一方で、自分本位な考えを相手に押しつけてしまうこともある。友達と仲よくするためには、自分から仲よくしようとする気持が大切であることや、お互いに協力し助け合う行動が大切であることに気づくようにしたい。

そこで、この学習に関わる実態調査をおこなったところ、結果は次の通りになった。

	4月19日 実施 (26人)	9月2日 実施 (27人)
問1. 困っている友達を助けたことはありますか。	はい 18人 いいえ 8人	はい 21人 いいえ 6人
問2. 自分が困っている時に、友達に助けてもらったことはありますか。	はい 23人 いいえ 3人	はい 23人 いいえ 4人
問3. どんな時に助けてあげましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・休みの人に連絡帳を届けた。 ・忘れ物した友達に貸してあげた。 ・けがをした友達を保健室に連れて行ってあげた。 など 	
問4. どんな時に助けてもらいましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強で困ったときに教えてくれた。 ・困っているときに声をかけてくれた。 ・転んだ時に保健室まで連れて行ってくれた。 ・相談にのってくれた。 など 	
問5. 助けてもらった時、どんな気持ちになりましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%;">・ありがとう。 <li style="width: 33%;">・嬉しい。 <li style="width: 33%;">・心があたたかい。 <li style="width: 33%;">・いい気持ち。 <li style="width: 33%;">・楽しい。 <li style="width: 33%;">・今度は自分がしてあげたい。 <li style="width: 33%;">・友達っていいな。 <li style="width: 33%;">・優しい。 <li style="width: 33%;">・よかったな。 など 	

実態調査の結果を見ると、助けたり、助けられたりという経験を多くの児童がしていることがわかる。一方で友達に助けてもらったという経験がないと答えている児童もあり、助けてもらった実感を持ってない児童も多数みられる。

学校生活の中では、相手の立場や気持ちを理解せず、自分の欲求を抑えられずに、自分勝手な言葉を言ってしまうたり、わがままな振る舞いをしてしまったりする場面をよく目にする。そこで、自己中心的な考えで行動するのではなく、相手の気持ちを理解して、互いに助け合おうとする、友達を大切にすることを育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、森の動物たちに乱暴をしていたきつねの「こんきち」が、おおかみに襲われたとき森の動物たちから助けられるが、自分のことしか考えられず逃げ出す。一方で走物たちは、なかまと助け合っておおかみを退治する。逃げきった「こんきち」は、我に振り返り助け合うことの大切さを実感し、動物たちに謝りながら大泣きをするという話である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の点を話し合うこととする。

① 森のなかまたちが相談をしている内容。

この場面は、乱暴者の「こんきち」が捕まって、助けに行こうか話している。助けに行くか行かないか、またその理由についてなど、森のなかまはどんな会話をしているか話し合うことで、ねらいとする価値への意識づけを図る。

② 「こんきち」元の場所に引き返して大声で泣きだしたあとの気持ち。

「こんきち」がわざわざ戻ってきて、泣いたあとの気持ちについて話し合う。「こんきち」がなかまを気遣い自分の勝手さを反省して、元の場所に戻る。そこでさらに、自分のせいでけがをしたぴょん子を助けたなかまたちを見つける。「ごめんよ。」と言いながら泣き出す「こんきち」の気持ちを考えることで、その後の「こんきち」の森のなかまたちとの関わりを想像させたい。価値に迫るためにも、場面絵などを用いながら登場人物の心情を考えさせたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 研究主題との関わり

【研究主題】

自己の生き方を見つめ、よりよく生きようとする心の力を育む 道徳教育～伝え合いから議論へ～

【仮説】

- ・ 価値について自分の考えを持ち、相手に伝えていくことができれば、自己の生き方を見つめることができるであろう。
- ・ 議論する活動を通して様々な考えに触れることで、より良く生きようとする心の力を育むことができるであろう。

【手立て】

学習の方法

- ・ 本時では、道徳的価値へより深く迫るために問題解決的な学習を展開する。「どうして、たすけ合うことは、ひつようなのだろうか。」という問題で本時の学習を行う。
- ・ 話し合う場面では、出てきた答えに対して、教師が随時、切り返しや問いかけをして価値へより深く迫れるようにする。

教材文の活用

- ・ 登場人物の立場に立って、考えを深め自己の生き方を見つめさせる。森のなかまたちの行動から、主人公は、自分の身勝手さと友達のやさしさに気づく。主人公の気持ちの変化を考えていく過程で、児童は友達と助けあうことの大切さについて考え、自己の生き方を振り返る。

他の活動との関連

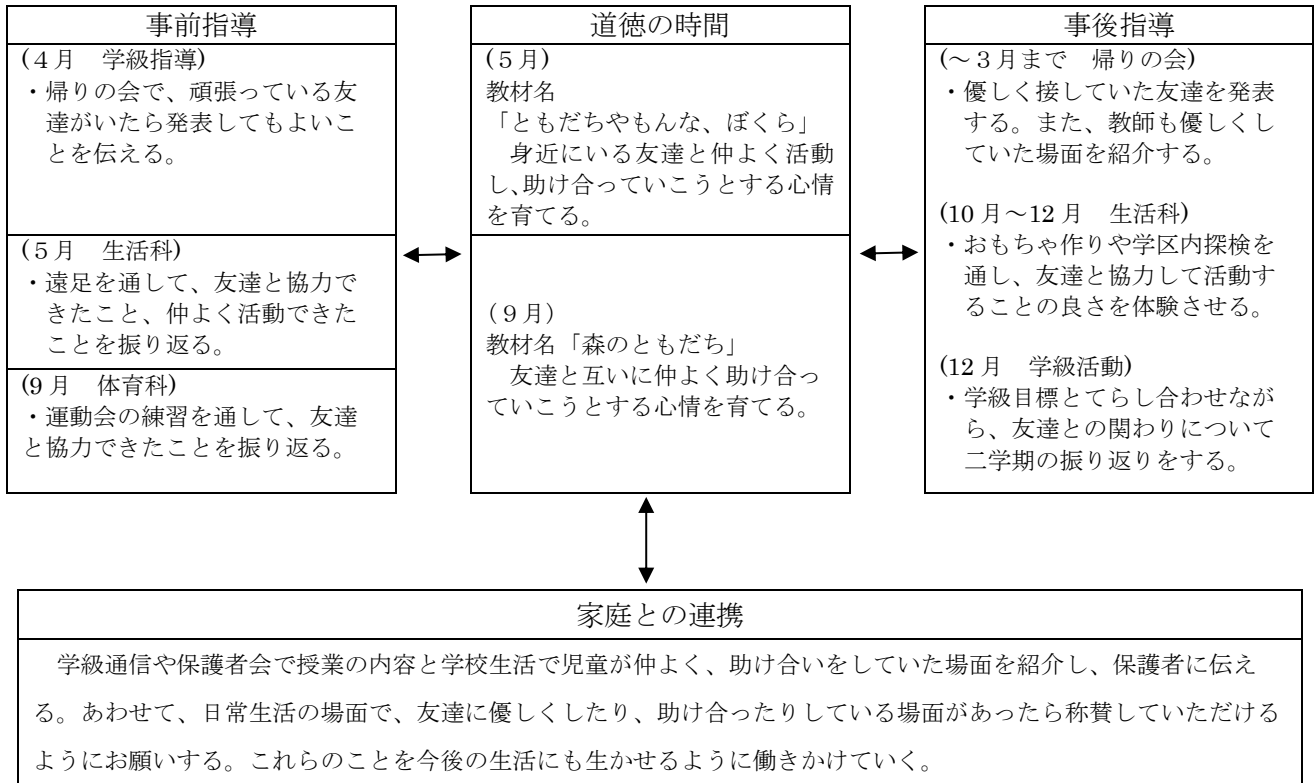
- ・ 朝の会・帰りの会でのスピーチ、各教科での話し合い活動などで、様々な考え方があつたことを知り、よりよく生きていこうとする心の力を育む。

5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	・ 指導上の留意点 ☆ 評価の観点
導入	1 アンケートを掲示する。 ○みなさんのアンケート結果を見てみましょう。	・ そうなんだ。 ・ ぼくもそうだな。	・ 「いいえ」の人に注目し、課題への動機付けをする。
	○学習課題	どうして、たすけ合うことは、ひつようなのだろうか。	
展開	2 教材について知る。		
前段	<p>[主人公] こんきち（きつね）</p> <p>[登場人物] 森の動物たち（主な人物…ぴよん子 おおかみ）</p> <p><条件・状況> いつも森の動物たちに乱暴をしていたこんきちが、おおかみに襲われたときにみんなが助けてくれた。しかし、ぴよん子が襲われたとき、こんきちは、自分だけ逃げてしまう。</p>		

後 段	<p>3 教材の範読を聞き、話し合う。</p> <p>(1) 森のなかまたちは、どんなことを相談していたのでしょうか。</p> <p>○役割演技</p> <p>(2) このあと、こんきちは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <p>○ワークシートに記入</p> <p>4 課題に対する自分の考えを深め、自己を見つめる。</p> <p>(1) 今日の学習で、どんなことを思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助けに行こう。 ・仲間だから、助けてい。 ・こんきちくんだって、生きています。 ・かわいそう。 ・こわいな。 ・助けに行かない。 ・放っておこう。 ・いつも意地悪しているから、しょうがない。 <ul style="list-style-type: none"> ・次からは、ぼくも助けよう。 ・友達となかよくしたい。 ・もう、いたずらしないよ。 ・やさしくしよう。 ・これから、みんなとなかよくするよ。 <ul style="list-style-type: none"> ・助け合うことは、必要。 ・助け合うことは、大切。 ・ぼくも助け合っていきたい。 ・助け合うと気持ちよく生活できる。 ・友達を大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的・多角的な意見交流になるように、双方の意見を肯定的に見るように留意する。 ・多くの意見が出るように、教師が切り返しの言葉を投げかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・逃げてから大声で泣くまで、こんきちの行動と意思をおさえる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>恥ずかしくなった。 もどった。 びよん子を助けているなかま。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートは考えをまとめるために使用する。 <p>☆変化したこんきちの気持ちを考え、話し合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助け合っていこうとする児童の気持ちを大切にす。 ・今までの経験も思い出しながら考えられるように促す。 <p>☆助け合うことのよさについて考えている。</p>
終 末	<p>5 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が助けてもらった時の気持ちを考えて、終わりにする。

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・登場人物の気持ちを考え、友達の意見を聞き、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分のとの関わりで深めている様子】

- ・助け合うことよさに気づき、価値についての考えを深めている。

8 板書計画

